

備前市「論語かるた」大会 小学生以下競技ルール



小学生以下の部門のルールについて説明します。
各学校等で遊ぶ場合も、普段からこのルールを守って、礼儀正しく、仲良く楽しく遊みましょう。

【かるたについて】

大会では、「論語かるた」（「絵札」と「字札」各44枚で1セット）を使用する。

【部門及び取札について】

- ・①小学生（低学年）以下②小学生（高学年）の2部門とし、2部門とも絵札を取ることとする。
- ・決勝は部門毎に行い、各部門上位3名を表彰し、賞状と記念品を授与する。
（決勝戦進出者は予選第2位までとする。）

【競技方法】

○座り方（※別紙会場図参照）

- ・競技者は、横一列に並び自分の前にある絵札を取る。札の共有をしないため、決勝進出者（2名）はその絵札を持って講堂へ移動する。

○札の並べ方

- ・アルコール消毒を済ませた審判は、44枚の絵札を並べる。並び始めてから約3分間は、記憶時間とする。

○競技開始

- ・進行係が鳴らす太鼓1打で競技を開始する。
競技者は、姿勢を正し、読み始めまで両手はひざに置く。

○札の読み方

- ・「読み手」が「から札・ひ」を2回読む。これが予告になり、1枚目の字札がまず1回読まれ（これを「本読み」と言う）競技者は、その絵札を取る。
1枚目を取った後は、1枚目の字札をもう一度読み、次の字札を読む。（字札は、取る時と取った後と2回ずつ読むことになる）。

「から札」も途中で読まれることもある。

競技者は絵札を探し、黙って取る。

- ・読み手が字札を読み終わると、同時に進行係は太鼓を1打する。
- ・20枚目の字札を読み上げ、太鼓1打の読み終えた合図で競技を終了とする。

○確認

- ・太鼓1打の読み終えた合図で絵札を正しく取れていれば、競技者は取札を横に置き、取れなかった場合は、審判が絵札を取り、取札とは別に置いて、同時に旗を上げ合図する。（札が取れた場合は白、取れなかった場合は赤を上げる。）（太鼓の1打により）同じ字札がもう一度読まれ始めると、旗を下ろして次の準備をする。そして、次の字札が読まれる。

○札の取り方

- ・絵札を取る時は、しっかり手で押さえ黙って取る。絵札を飛ばしても取ったことに

はならない。むやみに飛ばした場合は失格となる可能性がある。

○お手つき

- ・(予選・決勝戦) 読まれた絵札以外に触れた場合は、「お手つき」とし、次の回は一回休み。審判は、正しい絵札を取り、取札とは別に置いておく。お手つきで一回休みの時に読まれた絵札も取札とは別に置く。

○進行

- ・旗が全てあがっていることを確認してから、太鼓を1打する。
- ・読み手は、もう一度同じ字札を読み、そして次の字札を読み上げる。次の字札を読み終わると(タイミングをみて)太鼓を1打する。

○得点

- ・競技者と審判員で取った枚数を確認する。審判は記録表に枚数を記入する。
- ・取札の枚数の多い順に決勝戦進出者、3位を決定する。同数の場合は、じゃんけんで決勝戦進出者、3位を決定する。(※同数の場合は決勝戦もじゃんけんとする。)
- ・本部は決勝戦進出者を確定・発表し、決勝開始時刻を知らせる。

【「論語かるた」の札の読み方について《注意事項》】

- ・読むときに濁点がつくもの

「け」：げん(言)を知らざれば、以て人を知ること無し。

「こ」：ごう(剛)・毅・朴・訥、仁に近し。

「し」：じん(仁)を為すは己に由る。人に由らんや。

- ・字札に()がついているものは、()内も読むので、「お手つき」に気を付ける。

「ぬ」：(ふんど(糞土)のしょうは)ぬるべからず。

「へ」：(きゅうよう(久要)は)平生の言を忘れず。